

学章、学生・卒業生の活動からたどる140年

大学の知を発信！
017

◆学章の移りかわり 大阪市立大学は、2020(令和2)年に創立140周年を迎えた。その源流は、1880(明治13)年、西区立売堀に五代友厚らによって開設された

大阪商業講習所にある。これは、私立の講習所であり、商業の専門的人材を育成するための学校であった。その後、この講習所は、府立大阪商業講習所(1881、明治14年)、府立大阪商業学校(1885、明治18年)、市立大阪商業学校(1889、明治22年)、市立大阪高等商業学校(1901、明治34年)を経て、1928(昭和3)年設立の大阪商科大学につながる。1949(昭和24)年に、大阪商科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校が統合され、大阪市立大学が誕生した。さらに1955(昭和30)年に大阪市立医科大学も統合された。このような変遷の中で、学章(帽章・襟章)も移りかわり、その時代の学生や教職員はそれらに愛着をもっていたことだろう。

1892(明治25)年以前に使われていた帽章は「商」の文字を素材としたものであった(写真1)。1892(明治25)年、堂島校舎開校を記念して、「梅の花」を素材にした帽章が制定された。この「梅の花」は、学校近くの大阪

天満宮の「梅鉢紋」と関係があると推定される。後身の大阪高等商業学校の帽章は、「梅の花」の図案を継承し、中心に「高商」の文字を配したものであった(写真2)。

大阪商科大学の学章は、「商大」の文字を図案化したもの(写真3:帽章)と、その両側に「羽翼」を配したものがあ(写真5:襟章)。この羽翼は、ローマ神話の商業の神「マーキュリー」を意味する。大阪商科大学高商部および予科の帽章は、大阪市の市章である「みおつくし滯標」を中央に配し、「OUC」(Osaka University of Commerce)の文字を組み合わせ、その両側に羽翼を配している(写真4)。

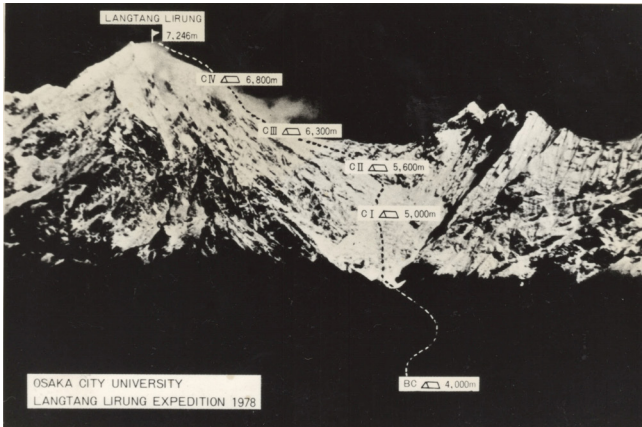
1949(昭和24)年に大阪市立大学が誕生したが、しばらく学章は制定されず、「市大」と「羽翼」を組み合わせたマークが学生達によって広く使われていた。

現在の学章は、1962(昭和37)年に公募によって決められた。当時、生活科学部の学生であった北浦かほる名誉教授の作品が選ばれた。大阪商科大学の学章を継承し、「大学」の文字が「滯標」と「羽翼」に支えられたデザインで、素材の比率が厳密に決められている(写真7)。大学旗(写真6)は、この「学章」と「大阪市大ブルー」でデザインされている。



140周年展と大学史資料館(大学博物館) 実現にむけてご寄附のお願い →大阪市立大学夢基金
お申込み時にTOP1「創立140周年記念事業」を選択してください
【お問い合わせ】大学サポーター交流室(夢基金担当) TEL06-6605-3415
<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund/xbtf2s>

編集発行
(仮称)大学史資料館設立準備委員会
学術情報総合センター6階 大学史資料室内
TEL: 06-6605-3261



日九月七年九和昭 (可認物)

【ウィンブルドン混合ダブルス】全英庭球選手権大会混合ダブルス試合決勝は七日わが三木、ラウンド嬢とオースチン、シムフリード・パロン夫人組の間に三木組の優勝に歸した、わが選手がウィンブルドンにおいて選手権を獲得したのは今回が初めてである

三木は第一セットを3-6で落つたが第二セットに入るや兩者のコンビネーション極めて順調となり三木の

三木選手

ラウンド嬢

スマッシングもよくきまつたしかし何といつてもラウンド嬢の腕のさきは見事だいいフォームのドライブイング・ネット・ワークはさすが女子シングルのナンパワンとうなづかされた、これに反してシムフリード・パロン夫人は四人のうち最もおとつて来る、従つて球はシムフリード・パロン夫人に集中された形であつた

第一セットを6-4で落つたオースチンとオースチンの功みなカザアにも抑らず嚴密に得点を重ねラ



三木選手



ラウンド嬢

混合複試合に
三木組遂に優勝

健闘オースチン組を破る
全英庭球終る

右上：硬式庭球部第1期生三木龍喜氏ウィンブルドン優勝を伝える新聞記事（大阪毎日新聞 1934・昭和9年7月9日）
左上：ランタン・リルン（標高7246m）初登頂ルート
大阪市立大学山岳会第3次隊（1978・昭和53年）
左下：大阪市立大学学生歌（1940・昭和15年作）

大阪市立大学 学生歌

一 聞けや大和の清流に
久し歴史の足音を
今にないゆく若人の
果てぬ希望の前進を
吾等つくさんその使命

二 見よや明けゆく日の本の
自由の光照らす世を
叡知にさゆる眼もて
そびゆる科学の殿堂に
吾等究めんその真理



◆ウィンブルドン 混合ダブルスで優勝 大阪市立高等商業学校の卒業生である三木龍喜（1924年卒）は、テニスの4大会のひとつであるウィンブルドン選手権・混合ダブルスにおいて、1934（昭和9）年にドロシー・ラウンド（イギリス）とのペアで優勝した（右上）。三木は、中学時代から軟式テニスを始め、高等商業学校では硬式庭球部第1期生として活躍した。1924（大正13）年から関西では無敵を誇り、1924～26年、全日本選手権シングルスで3年連続準優勝している。卒業後、安宅商会の社員として6年間のイギリス滞在中に、ウィンブルドン選手権で優勝した。三木の硬式庭球部での活動と卒業後の活躍は、高等商業学校の国際性を示している。

◆ヒマラヤ、ランタン・リルン初登頂 ネパール・ヒマラヤ、カトマンズの北北東約70km、ネパール・中国国境付近に、ランタン・リルン（標高7246m、「チベットから来た雄牛のいる広い谷間から見上げた父なる山」の意味）がある。1978（昭和53）年10月24日、大阪市立大学山岳会第3次隊は、ランタン・リルンに初登頂した（左上）。これは、第1次隊（1961年）が雪崩の直撃を受けて隊長・隊員・シェルパの3名の犠牲者を出し、第2次隊（1964年）が悪天候

による目標変更をした後の初登頂で、17年越しの悲願達成であった。急峻な未踏峰に3度にわたり挑戦し初登頂を果たしたことは、歴史的な偉業である。

◆大阪市立大学 学生歌 学生が愛唱した多くの歌があった。1907（明治40）年、市立大阪高等商業学校の校歌として「夕べ古城を仰ぎ見て」（佐佐木信綱作詞・田村虎蔵作曲）が作られ、大阪商科大学でも歌い継がれた。その他にも、商大や市大では、在学生により作詞・作曲された歌が数多く作られた。田中記念館の前には、愛唱された逍遙歌「桜花爛漫」の石碑がある。現在、入学式や卒業式で歌われる「学生歌」（左下）は、1940（昭和15）年、グリークラブ第1回南濤会（OB会）の演奏歌として作られ、金子仁作（昭和16年卒）が中心となり合作した歌詞に平井保喜（康三郎）が曲をつけたものという。本学ホームページに、交響楽団・合唱団フリーデ・グリークラブ・混声合唱団による「学生歌」の演奏・合唱が紹介されている。（(仮称)大学史資料館設立準備委員会 塚腰実・渡部陽子）

学章（写真4・5）、ウィンブルドン優勝、ランタン・リルン初登頂については、140周年記念展示室で紹介しています。



準備室だより

◆140周年記念展示室が2020年11月3日に開室しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、一般公開は未定です。今後の開室予定は、大阪市立大学ホームページでお知らせします。◆大学ホームページの創立140周年記念特設サイトに、【大学史資料館の設立をめざして】が公開されています。大学史資料館の準備状況と140周年展の報告や、『NEWS LETTER』などを順次掲載していきます。ぜひご覧ください。◆この『NEWS LETTER』は、大阪市立大学 学術情報総合センター ホームページの学術機関リポジトリでも公開しています。「大学史資料館」で検索してください。

**(仮称)「大学史資料館」設立
準備委員会からのお願い**

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。
→学術情報総合センター6階 大学史資料室内 TEL：06-6605-3261